

令和6年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名：福島県

農業委員会名：昭和村農業委員会

I 農業委員会の状況(6年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和5 年 7 月 20 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	14	12
認定農業者	—	7
認定農業者に準ずる者	—	3
女性	—	1
40代以下	—	1
中立委員	—	2

任期満了年月日 令和8 年 7 月 19 日

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	2	2	1

2 農家・農地等の概要

	経営体数		農業者数(人)		経営体数(経営体)
総農家数	299	基幹的農業従事者数	116	認定農業者	46
農業経営体数	116	女性	27	基本構想水準到達者	7
※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入		40代以下	4	認定新規就農者	11
		※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入		農業参入法人	2
				集落営農経営	8
				特定農業団体	0
				集落営農組織	8

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	291	113	113	0	0	404

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	404 ha	266 ha	65.8 %
課題	担い手の高齢化及び減少により、離農者の農地集積が困難になっている。 カスミンウ就農者は継続的に増加しているものの土地利用型農業ではないことから、耕作放棄地の増加傾向を抑えられる程の土地利用は見込めないため、新たな方策が必要である。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	11 年度	集積率	85 %
今年度の新規集積面積	10 ha	農地面積(C)	404 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	276 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	68.3 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	46.2 ha	46.2 ha	0 ha
課題	遊休農地解消においては担い手の規模拡大や新規参入が必須であるが、担い手の高齢化により前者はあまり見込めないことから、後者に注力する必要がある。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和5年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	41.0 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	8.2 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和5年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	68 ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	黄区分は現状存在しないが、今後発生見込みのため県や関係機関と情報共有の上策定する方針とする。

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	2 ha
---------------------------	------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	3年度新規参入者		4年度新規参入者		5年度新規参入者	
	0	経営体	3	経営体	3	経営体
	0	ha	1.6	ha	6	ha
課題	花卉:新規参入者数は安定しているものの、経営開始時の各交付金対象基幹満了後の支援体制における検討が必要。 水稻:水稻のみでは経営が厳しいこと、多額な設備投資が必要であることから、新規参入はもちろん、親元就農ですら実績がない。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
	56	3	1	20
	ha	ha	ha	ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			2.0	ha

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	5	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	12	人
			農地利用最適化推進委員の人数	2	人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	2	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の内容
12月	①農地の集積	地域計画の集落協議の内容に合わせ、農地の集積を促進する。
11月	②遊休農地の解消	毎年開催している農産物品評会と合わせ新米の食べ比べイベントを開催することで耕作意欲の発起に繋げ、遊休農地発生予防や解消に繋げる。
11月・1月	③新規参入の促進	下記(3)の就農フェアへの積極的な参加により、新規参入の促進を図る。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	2	回
---------------	---	---

開催時期	11月	相談会名	ふくしま農業人フェア
参加者数	1	開催場所	福島県内
相談会の内容	各自治体や農業法人がブースを設け、就農希望者に情報提供を行う。 本村はカスミソウ就農の他、水稻を中心とした雇用就農情報を発信する。		
開催時期	1月	相談会名	新・農業人フェア
参加者数	1	開催場所	東京国際フォーラム
相談会の内容	各都道府県、自治体がブースを設け、就農希望者に情報提供を行う。 本村はカスミソウ就農の他、水稻を中心とした雇用就農情報を発信する。		

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)